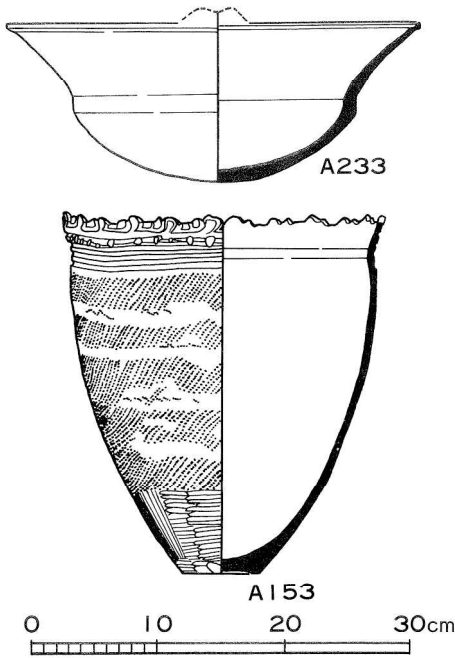
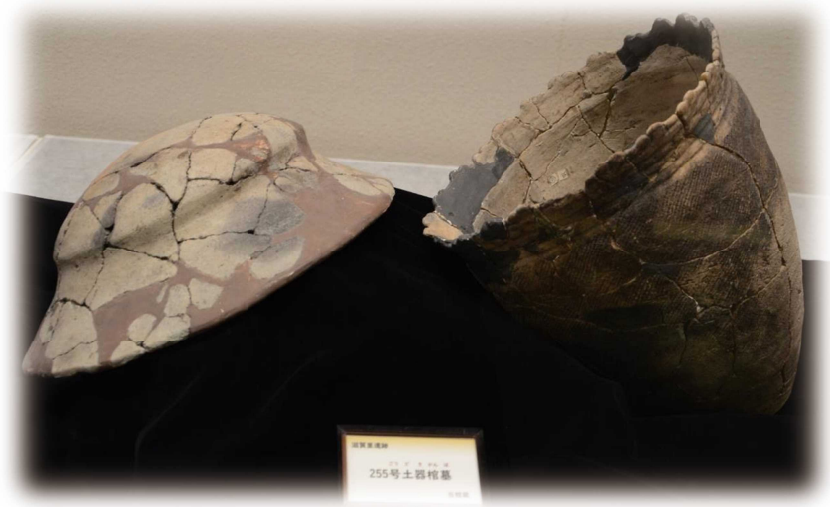


滋賀里 255 号甕棺墓
ー縄文時代晩期のある新生児の弔いー

岡田 憲一
(奈良県立橿原考古学研究所)

[構成]

- 1. 滋賀里遺跡とは
 ～年代を測るモノサシとしての滋賀里遺跡
- 2. 滋賀里墓地の内容
 ～滋賀里の地に葬り葬られた人々
- 3. 滋賀里 255 号甕棺の背景
 ～東日本系土器を用いながら西日本系の方法で葬られた理由

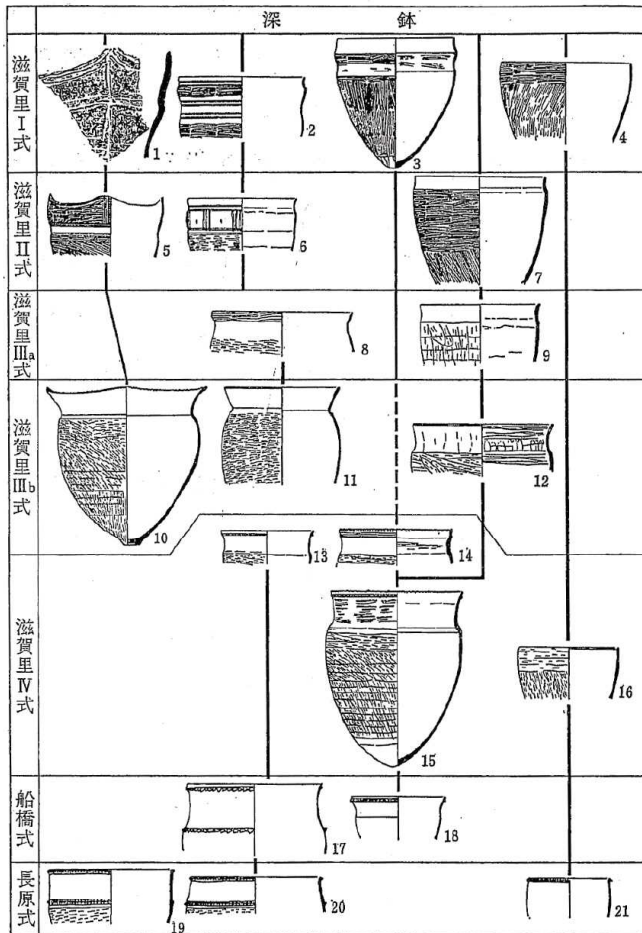


255	甕棺墓	0.8×0.5×0.15	新生児	- 大洞系の甕(A153)を斜方向にすえている。 - S-10°-E開口 - 滋賀里Ⅲの浅鉢(A233)を蓋としていたようであるが、調査では正確な状況をつかめていない。	256を切っている。
-----	-----	--------------	-----	--	--

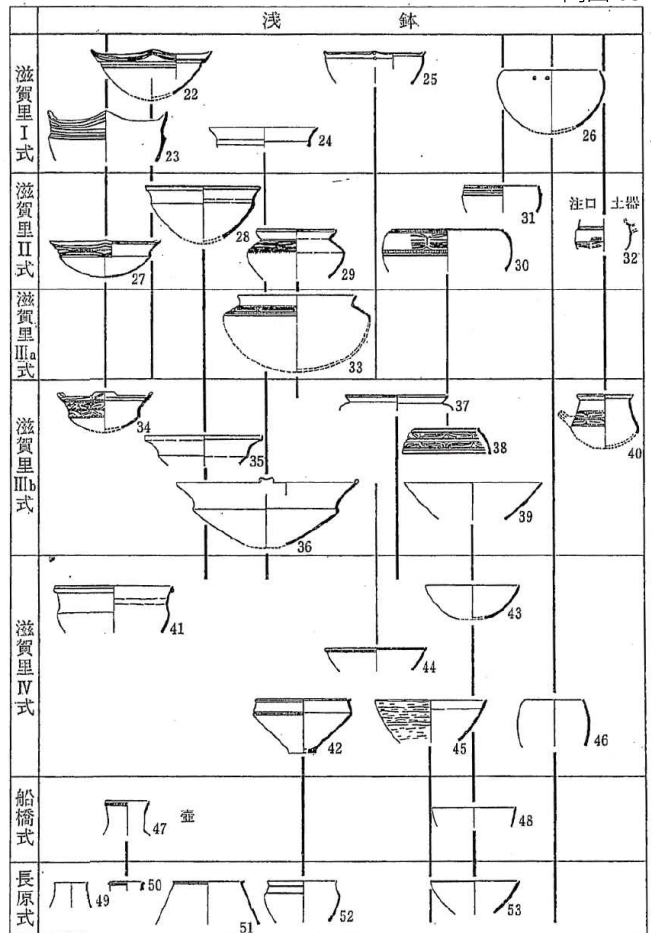
図 1 滋賀里遺跡 255 号甕棺使用土器と検出所見 (田辺編 1973)

〔主要参考文献〕

- 伊藤雅和・岡田憲一（編）2003『西坊城遺跡Ⅱ』 奈良県立橿原考古学研究所
- 岡田憲一 2000「土坑「墓」認定の手続き」『関西の縄文墓地 発表要旨集』 関西縄文文化研究会
- 岡田憲一 2006「近畿地方の亀ヶ岡式土器」『考古学ジャーナル』549 ニュー・サイエンス社
- 岡田憲一 2009「向出遺跡から復原する縄文時代の葬制と社会」『向出遺跡評価検討委員会報告書』 阪南市教育委員会
- 岡田憲一 2012「関西縄文集落の一時的景観と時間的累積」『関西縄文時代研究の新展開 関西縄文論集 3』 関西縄文文化研究会
- 岡田茂弘 1967「縄文文化の発展と地域性－近畿」『日本の考古学Ⅱ 縄文時代』 河出書房新社
- 長田友也 2008「総括」『日本考古学協会 2008 年度愛知大会研究発表資料集』 日本考古学協会
- 加藤雅士 2009「墓から復原する関西の縄文晩期集落」『関西縄文時代の集落と地域社会』 関西縄文文化研究会
- 木許 守・西村慈子（編）2015『観音寺本馬遺跡』 御所市教育委員会
- 葛原秀雄 1987「北仰西海道遺跡の調査」『今津町文化財調査報告書第 7 集』 今津町教育委員会
- 小林謙一 2008「縄文時代の暦年代」『縄文時代の考古学 2 歴史のものさし』 同成社
- 坂本嘉弘 2007「縄文 - 弥生移行期の葬制変化（九州）」『縄文時代の考古学 9 死と弔い』 同成社
- 清水芳裕 1973「縄文式土器の岩石学的分析」『湖西線関係遺跡調査報告書』 滋賀県教育委員会
- 末永雅雄・藤井祐介 1969「縄文晩期文化・近畿」『新版考古学講座 3 先史文化－無土器・縄文文化』 雄山閣出版
- 田辺昭三（編）1973『湖西線関係遺跡調査報告書』 滋賀県教育委員会
- 坪井清足 1951「滋賀県大津市滋賀里遺跡」『日本考古学年報 1（昭和 23 年度）』 誠文堂新光社
- 坪井清足 1962「縄文文化論」『岩波講座日本歴史 1』 岩波書店
- 中村健二 2008「凸帯文系土器（中四国・近畿・東海地方）」『総覧縄文土器』 アム・プロモーション
- 中村 豊 2008「西日本磨研土器（滋賀里 1～3 式土器）」『総覧縄文土器』 アム・プロモーション
- 廣瀬繁明 2024「滋賀里遺跡の立地と調査履歴」『滋賀里遺跡と滋賀里式 発表要旨集』 関西縄文文化研究会
- 藤沼邦彦・関根達人 2008「亀ヶ岡式土器（亀ヶ岡式系独群）」『総覧縄文土器』 アム・プロモーション
- 前田清彦 2007「土墳墓の性格」『縄文時代の考古学 9 死と弔い』 同成社
- 水野清一・小林行雄（編）『図解考古学辞典』 東京創元社
- 本村充保（編）2017『観音寺本馬遺跡Ⅲ（観音寺Ⅰ区）』 奈良県立橿原考古学研究所
- 森川幸雄（編）1995『天白遺跡』 三重県埋蔵文化財センター
- 家根祥多 1981「近畿地方の土器」『縄文文化の研究 第 4 巻 縄文土器Ⅱ』 雄山閣出版

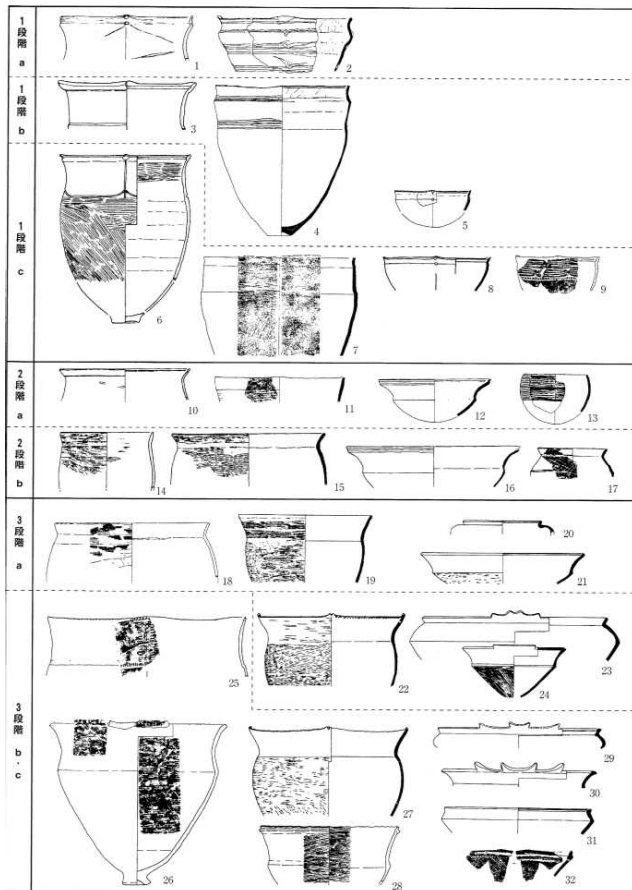


第1図 近畿地方晩期の編年 (S-1/12, 1の3/4) 滋賀里 (1~8, 10, 11, 13, 15, 16, 22~32, 35~39, 42~46) 恩智 (9, 12, 14) 船橋 (17, 18, 47, 48) 長原 (19~21, 49~53) 榎原 (33, 34, 40, 41)

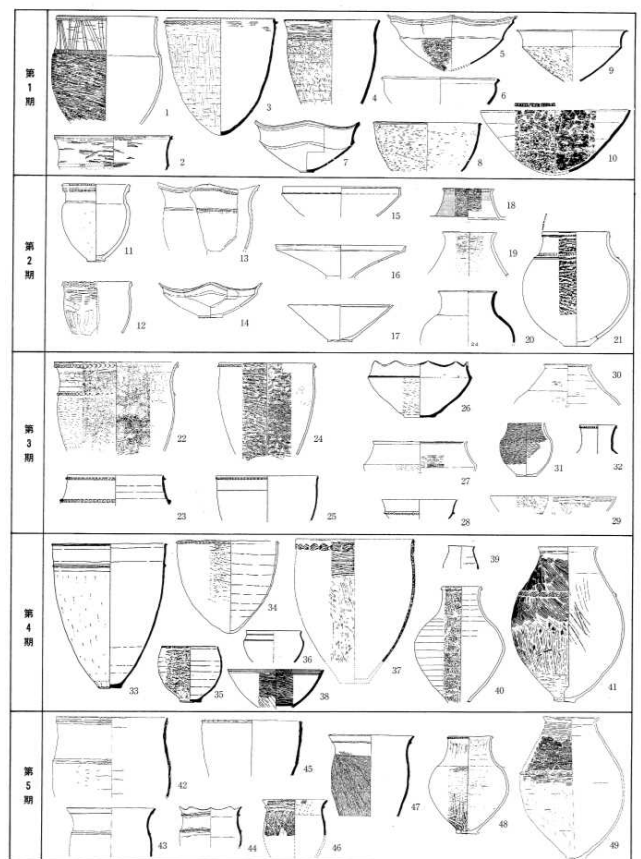


土器は、文様 1), 10), 12), 14) によったが、滋賀里遺跡出土の 8, 23 および図 2 は呼称は氏、長原遺跡出土土器は大津市文化財協会の御好意により筆者の奨励した未発表資料を掲載させていただいた。図式は 1 以上はすべて 1/12 である。

図2 滋賀里遺跡出土資料にもとづいて構築された近畿地方縄文時代晩期土器編年 (家根祥多 1981)



第2図 西日本産研土器 (滋賀里Ⅰ~Ⅲ式土器) の編年相別模式図
1: 9 (倉根) 2: 4・5 (内田) 3: 6 (若田) 4: 7 (志保) 5: 8 (滋賀里) 6: 9 (砂沢) 7: 10 (滋賀里) 8: 11 (川島) 9: 12 (西村) 10: 13 (山崎) 11: 14 (山崎) 12: 15 (山崎) 13: 16 (山崎) 14: 17 (山崎) 15: 18 (山崎) 16: 19 (山崎) 17: 20 (山崎) 18: 21 (山崎) 19: 22 (山崎) 20: 23 (山崎) 21: 24 (山崎) 22: 25 (山崎) 23: 26 (山崎) 24: 27 (山崎) 25: 28 (山崎) 26: 29 (山崎) 27: 30 (山崎) 28: 31 (山崎) 29: 32 (山崎) 30: 33 (山崎) 31: 34 (山崎) 32: 35 (山崎)



第3図 凸帯文系土器様式の編年図
1: 30 (岡田) 2: 31 (岡田) 3: 32 (岡田) 4: 33 (岡田) 5: 34 (岡田) 6: 35 (岡田) 7: 36 (岡田) 8: 37 (岡田) 9: 38 (岡田) 10: 39 (岡田) 11: 40 (岡田) 12: 41 (岡田) 13: 42 (岡田) 14: 43 (岡田) 15: 44 (岡田) 16: 45 (岡田) 17: 46 (岡田) 18: 47 (岡田) 19: 48 (岡田) 20: 49 (岡田) 21: 50 (岡田) 22: 51 (岡田) 23: 52 (岡田) 24: 53 (岡田) 25: 54 (岡田) 26: 55 (岡田) 27: 56 (岡田) 28: 57 (岡田) 29: 58 (岡田) 30: 59 (岡田) 31: 60 (岡田) 32: 61 (岡田) 33: 62 (岡田) 34: 63 (岡田) 35: 64 (岡田) 36: 65 (岡田) 37: 66 (岡田) 38: 67 (岡田) 39: 68 (岡田) 40: 69 (岡田) 41: 70 (岡田) 42: 71 (岡田) 43: 72 (岡田) 44: 73 (岡田) 45: 74 (岡田) 46: 75 (岡田) 47: 76 (岡田) 48: 77 (岡田) 49: 78 (岡田) 50: 79 (岡田) 51: 80 (岡田) 52: 81 (岡田) 53: 82 (岡田) 54: 83 (岡田) 55: 84 (岡田) 56: 85 (岡田) 57: 86 (岡田) 58: 87 (岡田) 59: 88 (岡田) 60: 89 (岡田) 61: 90 (岡田) 62: 91 (岡田) 63: 92 (岡田) 64: 93 (岡田) 65: 94 (岡田) 66: 95 (岡田) 67: 96 (岡田) 68: 97 (岡田) 69: 98 (岡田) 70: 99 (岡田) 71: 100 (岡田)

図3 『総覧縄文土器』の近畿地方縄文時代晩期土器編年 (左; 中村豊 2008、右; 中村健二 2008)

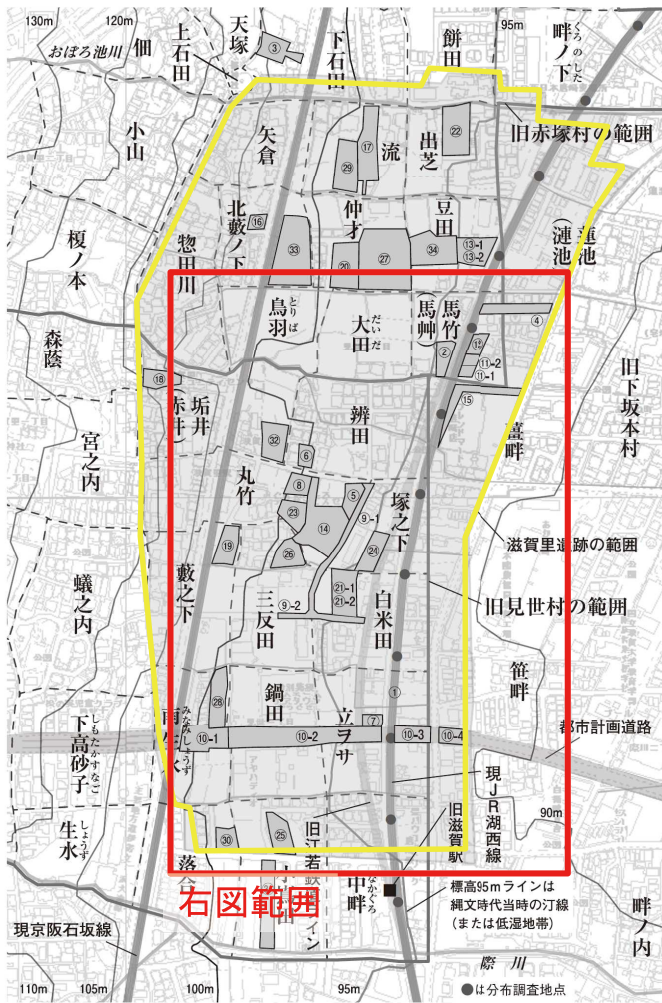


図4 旧滋賀里村の村小境界と滋賀里遺跡の既往発掘調査区 (1:5,000)

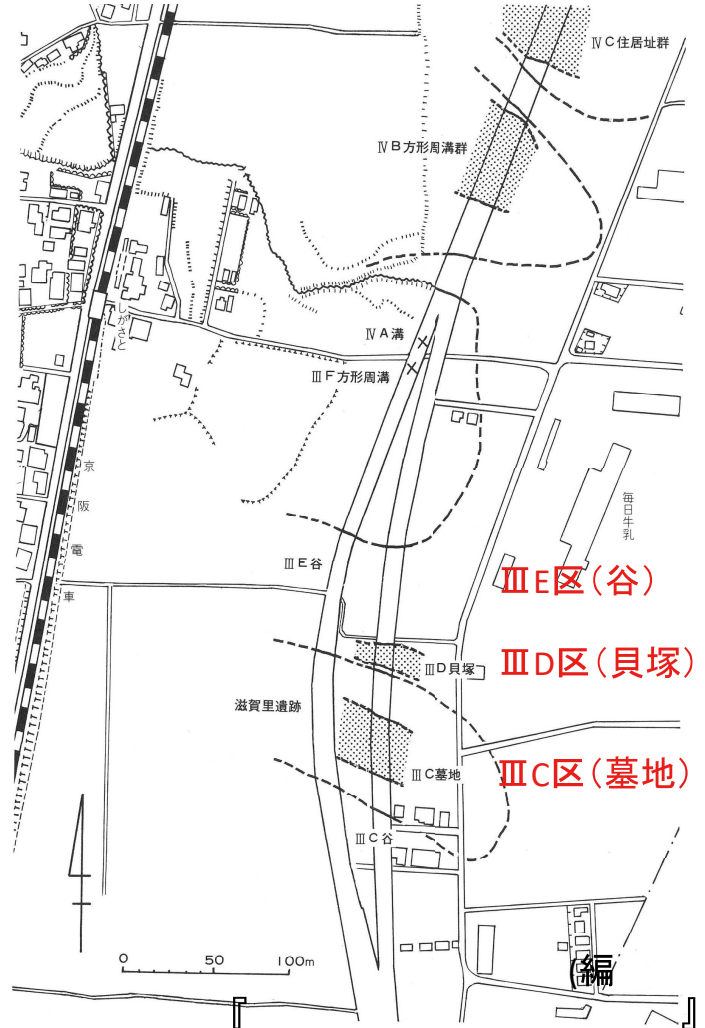


図4 滋賀里遺跡の位置と既往の調査成果 (左; 廣瀬 2024、右; 田辺編 1973)

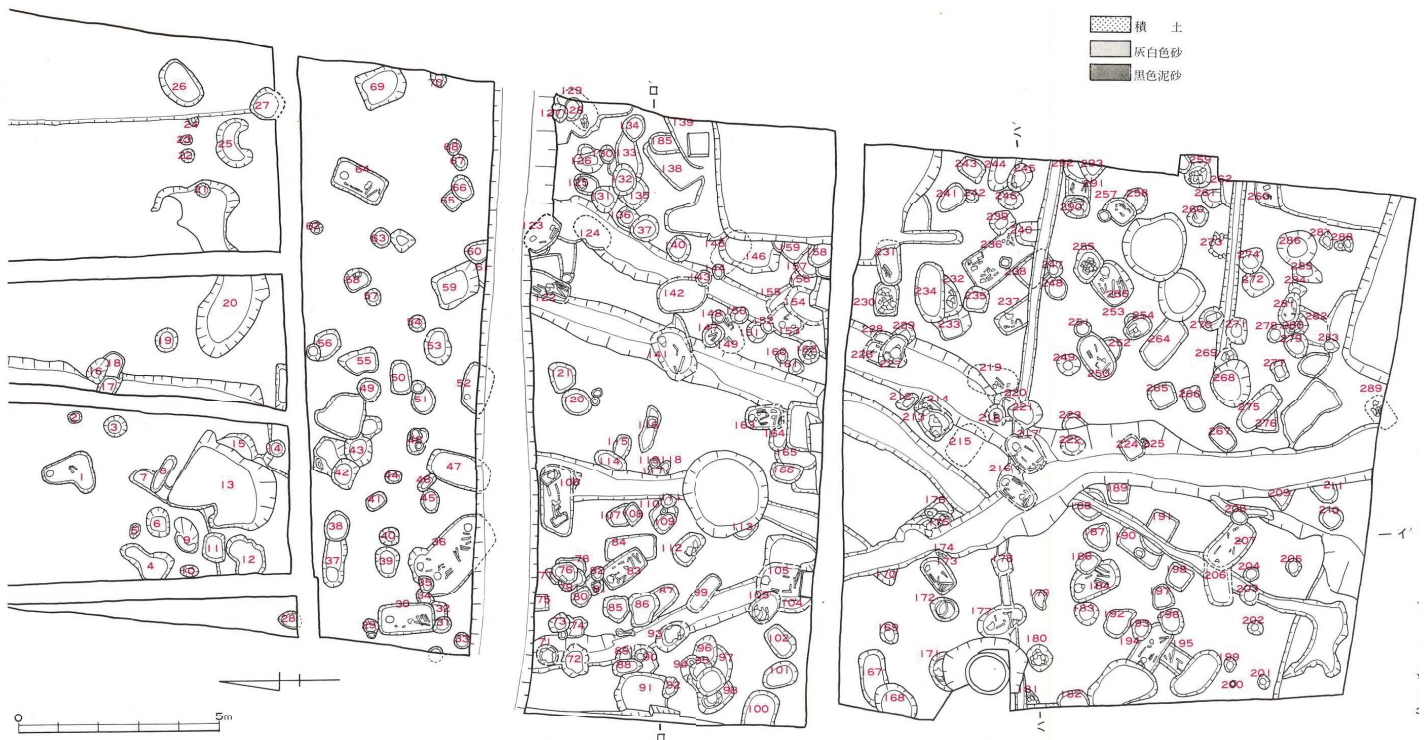
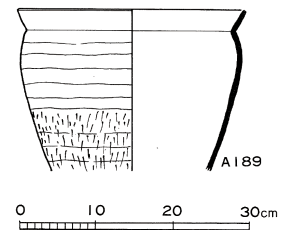
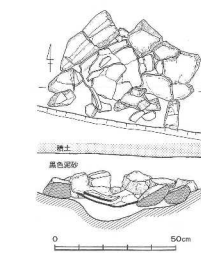
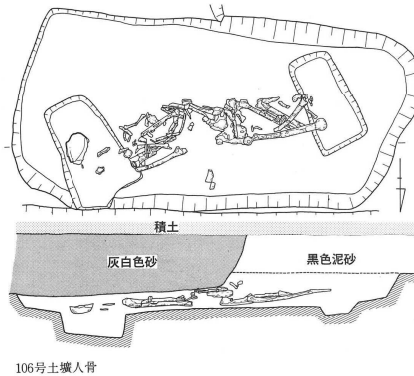
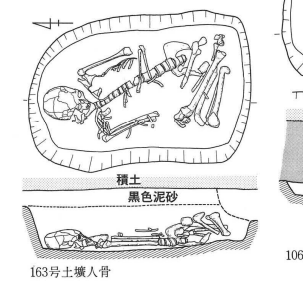
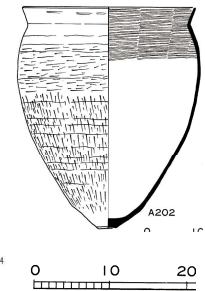
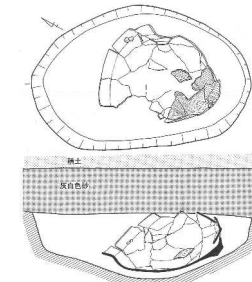
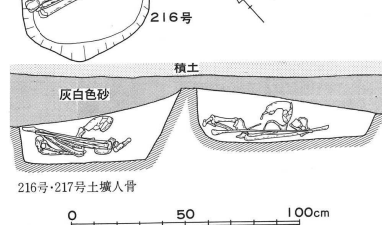
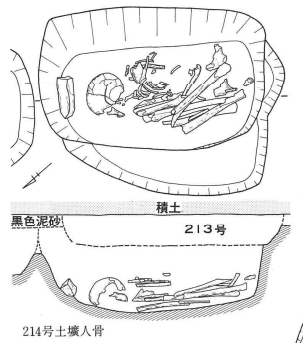
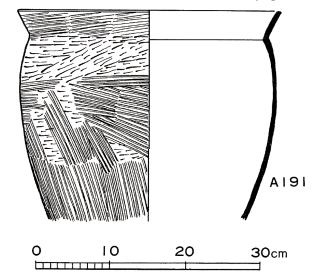
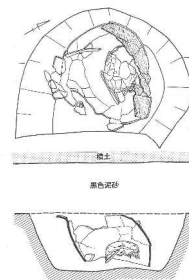
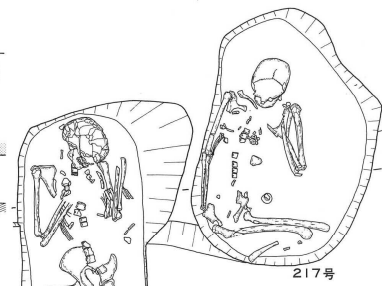
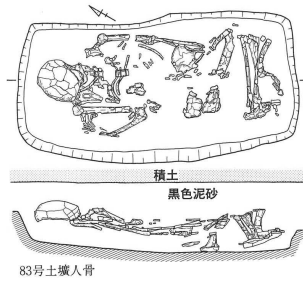


図5 滋賀里遺跡湖西線III C 区の縄文時代晩期墓地 (田辺編 1973)



Ⅲ C区墓址 主要な土坑墓

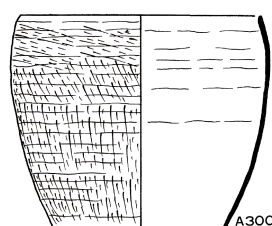
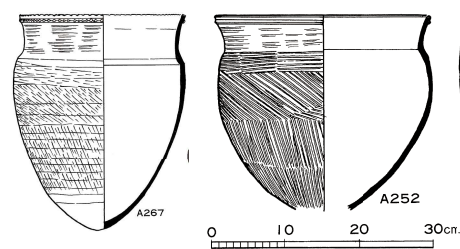
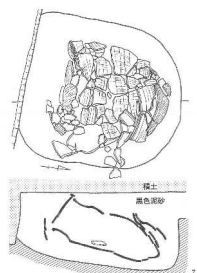
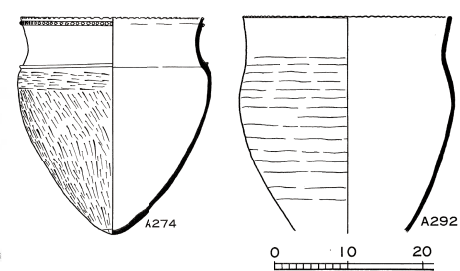
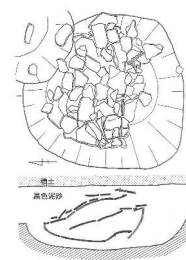
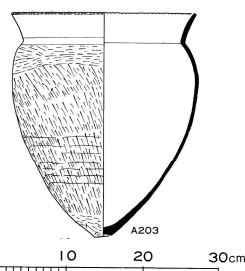
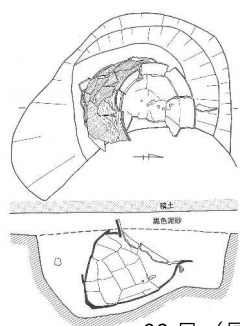
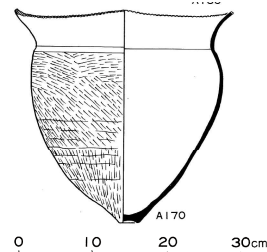
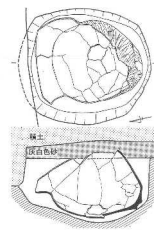
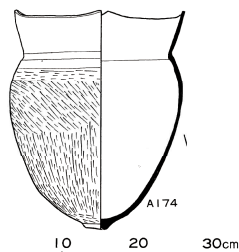
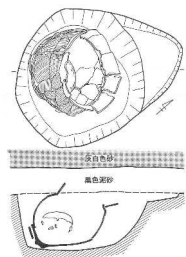


図6 滋賀里遺跡湖西線ⅢC区の土坑墓、土器埋設遺構 (田辺編 1973)

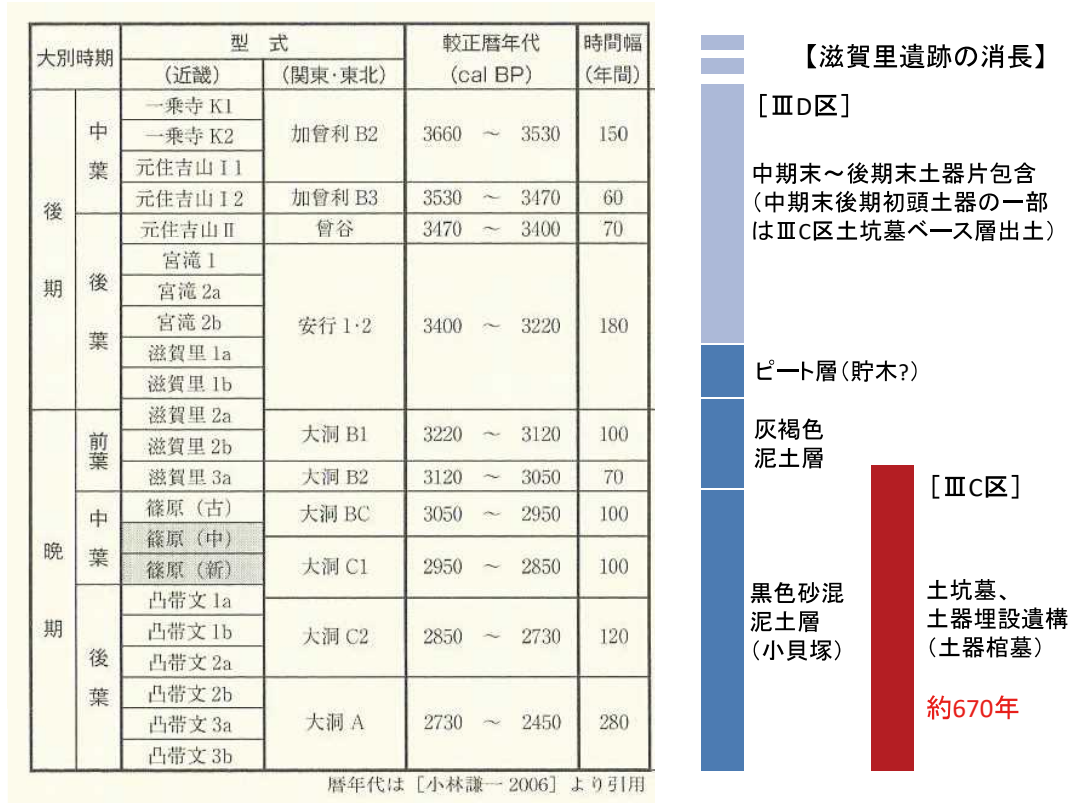


図 7 縄文時代晩期土器型式の年代と滋賀里遺跡の消長

表 8 滋賀里遺跡における土器埋設遺構(土器棺墓)設置数の推算(岡田 2012)

大別時期		型 式	埋設土器数	比例配分 (期別)	型式 再比定	分布補正	時間幅		世代数 (25年/世代)	世代あたりの 埋設土器数
							(表2より)	(細分)		
晩 期	中 葉	滋賀里3a	16	18.57	1	1.32	70年間	70.0	2.8	0.47
		篠原(古)			3	3.95	200年間	66.7	2.7	1.48
		篠原(中)			4	5.26		66.7	2.7	1.97
		篠原(新)			6	7.89		66.7	2.7	2.96
	後 葉	凸帯文1a	3	3.79	3	1.97	120年間	40.0	1.6	1.23
		凸帯文1b			3	1.97		40.0	1.6	1.23
		凸帯文2a	2	2.19	0	0.00	280年間	40.0	1.6	0.00
		凸帯文2b			0	0.00		93.3	3.7	0.00
		凸帯文3a			2	1.32	280年間	93.3	3.7	0.35
		凸帯文3b				1.32		93.3	3.7	0.35
		不 明	4	—	6	—	—	—	—	—
		計	25基			25.00	670年間		26.8世代	ave. 0.93基

※埋設土器の型式再比定は、報告書図面および遺物の実見検討にもとづく。

表 9 滋賀里遺跡における土坑墓設置数の推算(岡田 2012)

大別時期		型 式	埋設土器数	分布補正	土坑墓数 (成人) 比例配分	時間幅		世代数	世代あたりの 埋設土器数	世代あたりの 土坑墓数 (成人)
			(表4と同一)			(表2より)	(細分)	(25年/世代)		
晩 期	中 葉	滋賀里3a	16	1.32	3.70	70年間	70.0	2.8	0.47	1.32
		篠原(古)		3.95	11.06	200年間	66.7	2.7	1.48	4.15
		篠原(中)		5.26	14.73		66.7	2.7	1.97	5.52
		篠原(新)		7.89	22.09		66.7	2.7	2.96	8.28
	後 葉	凸帯文1a	3	1.97	5.52	120年間	40.0	1.6	1.23	3.45
		凸帯文1b		1.97	5.52		40.0	1.6	1.23	3.45
		凸帯文2a	2	0.00	0.00	280年間	40.0	1.6	0.00	0.00
		凸帯文2b		0.00	0.00		93.3	3.7	0.00	0.00
		凸帯文3a		1.32	3.70	93.3	3.7	0.35	0.99	
		凸帯文3b		1.32	3.70		93.3	3.7	0.35	0.99
	不 明	4	—	—	—	—	—	—	—	
	計	25基	25.00	70基	670年間	26.8世代	ave. 0.93基	ave. 2.62基		

※成人土坑墓の総数は、[加藤2009]にしたがった。

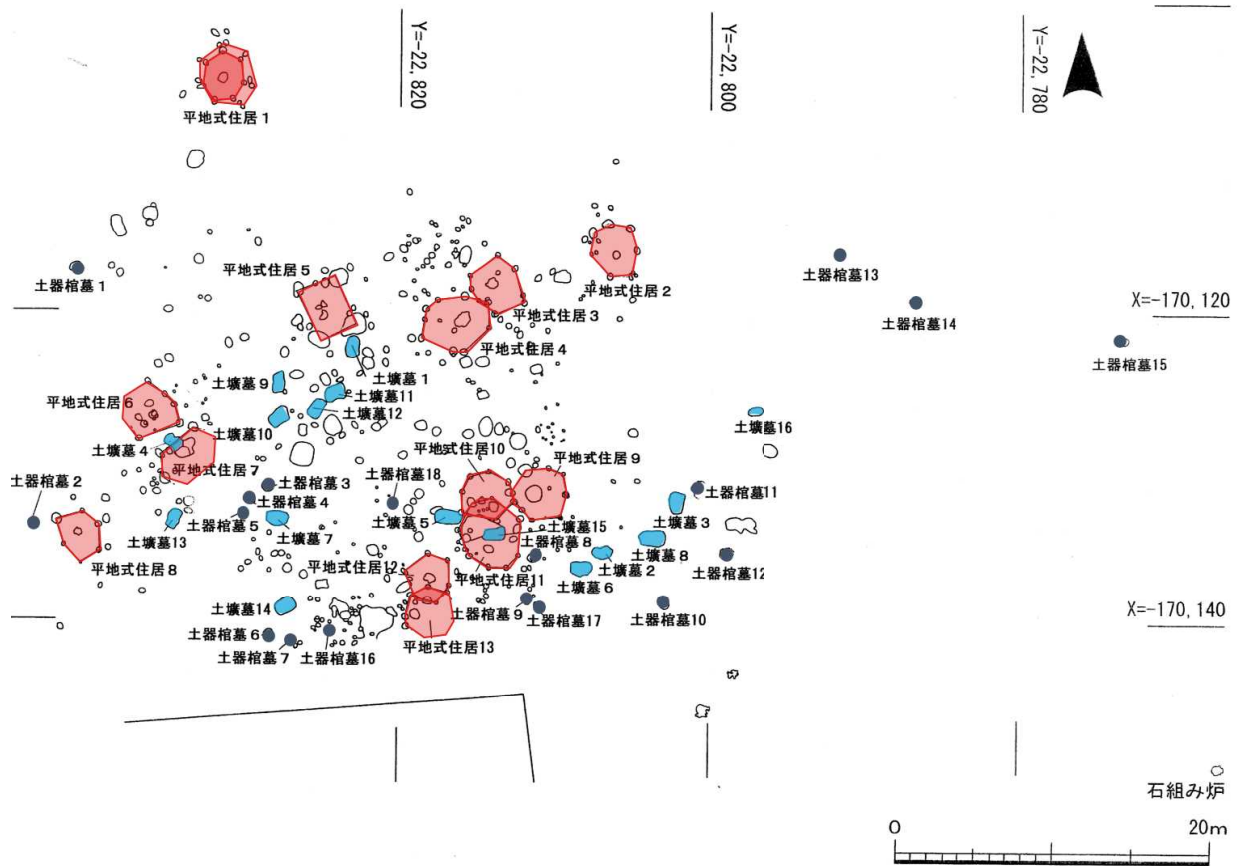


図 10 近畿地方縄文時代晩期の集落例：奈良県観音寺本馬遺跡（本村編 2017）

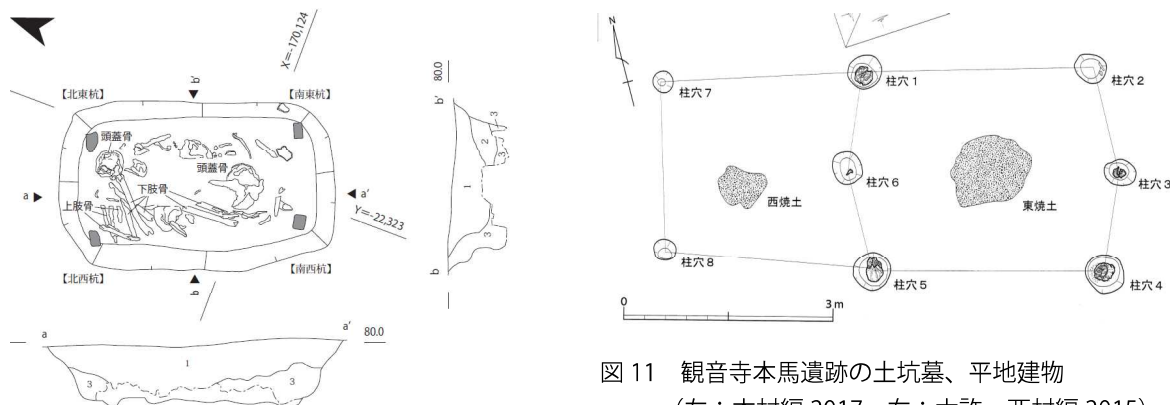
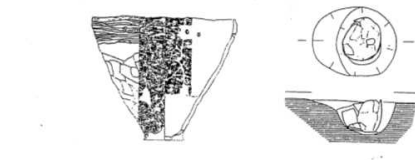
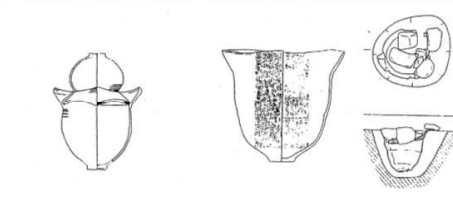
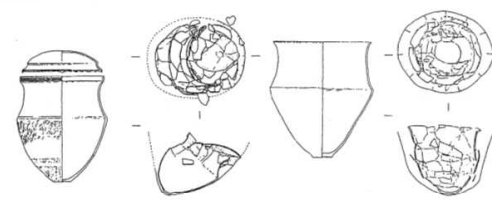
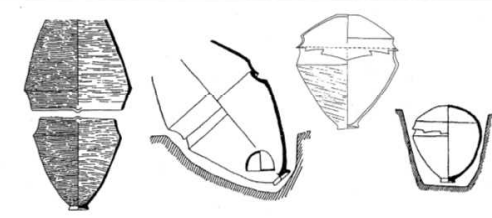
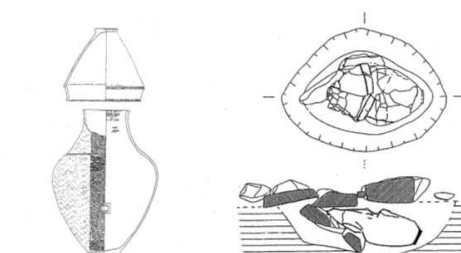
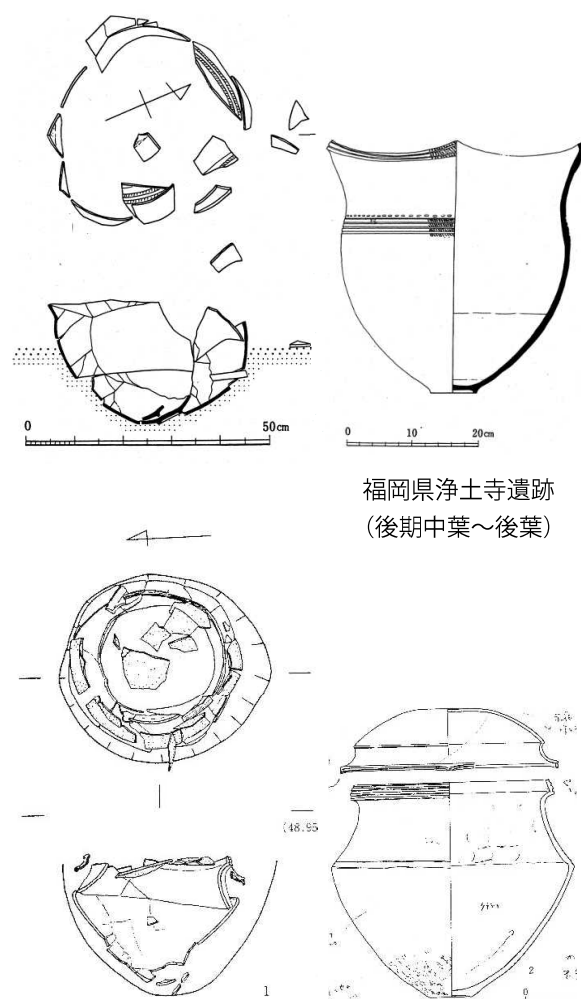


図 11 観音寺本馬遺跡の土坑墓、平地建物
(左；本村編 2017、右；木許・西村編 2015)

表 12 近畿地方の縄文時代晩期遺跡における土坑墓・土器埋設遺構・建物数とその設置数（岡田 2012）

遺 跡	埋設土器	土坑墓	住居数	時 期				時間幅 (表2より)	世代数 (25年/世代)	世代あたりの 埋設土器	世代あたりの 土坑墓数	世代あたりの 住居数
				(前)	(中)	(後)	(土器型式)					
北仰西海道	96	100	0	+	+	+	滋賀里2-凸帯文3	770	30.8	3.12	3.25	-
滋賀里	25	81	0	+	+	+	滋賀里3a-凸帯文3	670	26.8	0.93	3.02	-
上 里	26	8	9	+	+		滋賀里3a-篠原新	270	10.8	2.41	0.74	0.83
観音寺本馬	26	16	16		+		篠原中・新	133	5.3	4.89	3.01	3.01
玉 手	20	14	2			+	凸帯文2a	72	2.9	6.94	4.86	0.69
長 原	11	18	3			+	凸帯文3-弥生 I	93	3.7	2.96	4.84	0.81
佃	5	7	2	+	+		滋賀里3a-篠原中	203	8.1	0.62	0.86	0.25
越部ハサマ	2	11	0		+		篠原古・中	133	5.3	0.38	2.07	-
森添6層	1	0	12	+			宮滝-滋賀里2	280	11.2	0.09	-	1.07
森 山	0	0	6				一乗寺K-元住吉山 I	230	9.2	-	-	0.65
										ave. 2.48	ave. 2.83	ave. 1.04

縄文 後期初頭 から前葉		・北部九州から周防灘沿岸に埋甕が伝播
後期中葉		・中九州まで分布域を拡大 ・島原半島で深鉢同士の合口が見られる
後期末		・九州全域に分布域を拡大 ・深鉢と浅鉢による合口が一定量見られる ・集落内から20基以上検出される遺跡もある
晩期後半		・東九州で埋甕の群集化 ・深鉢と深鉢の合口が登場
晩期末～ 弥生早期		・支石墓の伝播 ・壺形土器が埋葬施設に加わり、成人墓を含めた集団墓化→甕棺



福岡県浄土寺遺跡
(後期中葉～後葉)

熊本県上南部遺跡
(後期後葉)

図2 九州の縄文時代後・晩期の埋甕から甕棺への変遷図

図 13 九州地方の土器埋設遺構（土器棺墓）の変遷と“九州型埋甕”（坂本 2007 ほか）

表 14 滋賀県北仰西海道遺跡における
土器埋設遺構（土器棺墓）の設置形態（葛原 1987）

滋賀里式3a期／篠原式（古中新）／凸帶文1-2期／凸帶文2-3期

	时期 形式	III-a 式	古	III-b 式	新	古	IV 式	新	古	V 式	新
正立 中门	A-a		39								
	A-b	86, 28	34, 49								
Attic 中门	B-a		89, 30, 16						29, 40, 52		
	B-b		63, 66, 19, 25, 23, 17, 62, 82			22, 85					
Attic 中门	B-c		4, 10, 14, 54, 55		41 77 71						
	C-a		15	36 51 73		75, 27, 53, 74, 83		21			
正立 中门	C-b		33 65 1 6 8 18 20		59 76 78 26						
			32 37 38 46 58 90								
Attic 中门	C-c		3 5 45 48 64 72		9 42 43 47		61 60				
			80 81								

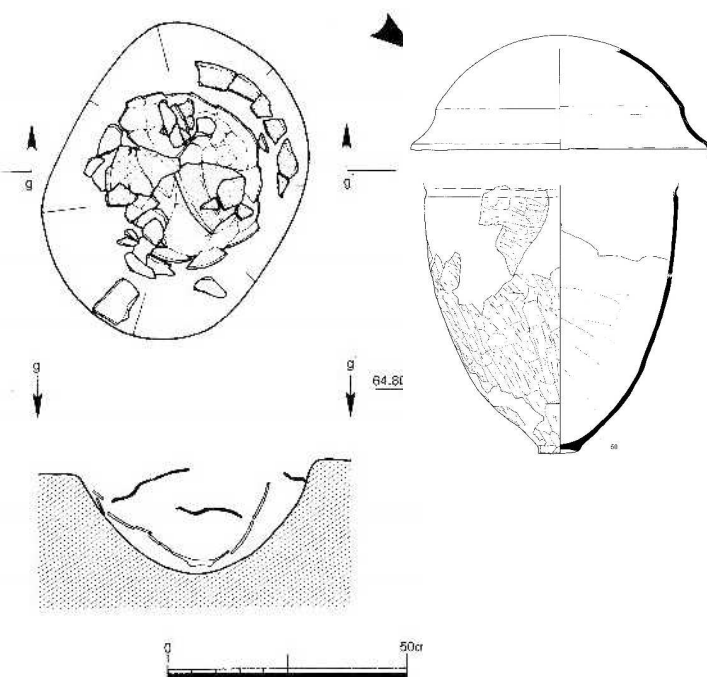


図 15 奈良県西坊城遺跡の“九州型埋甕”（伊藤・岡田編 2003）

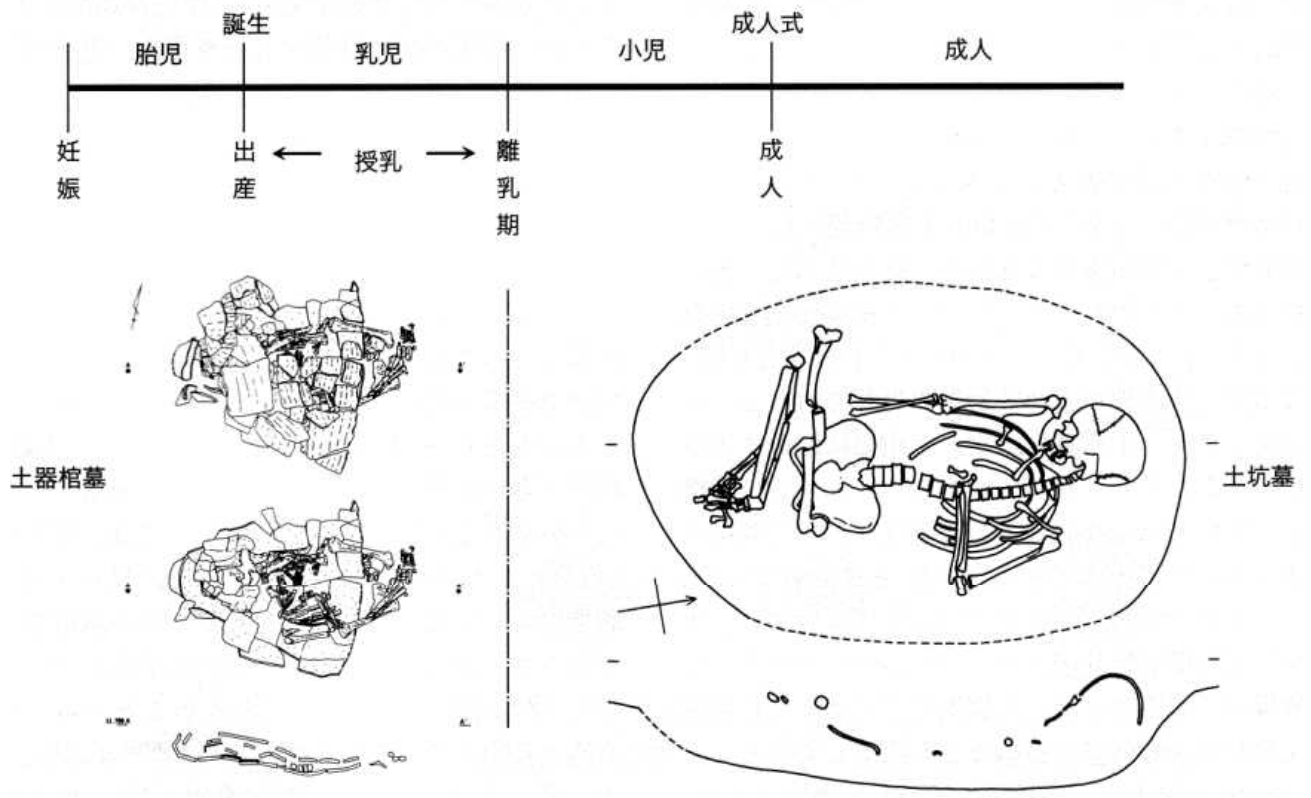
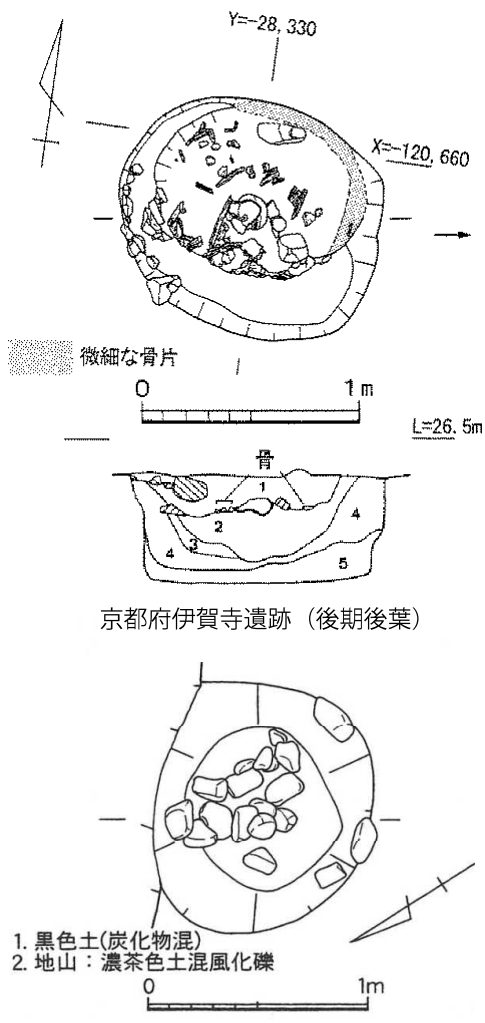


図 16 東海地方における縄文時代晩期の葬制モデル（長田 2008）



大阪府向出遺跡（後期後葉）

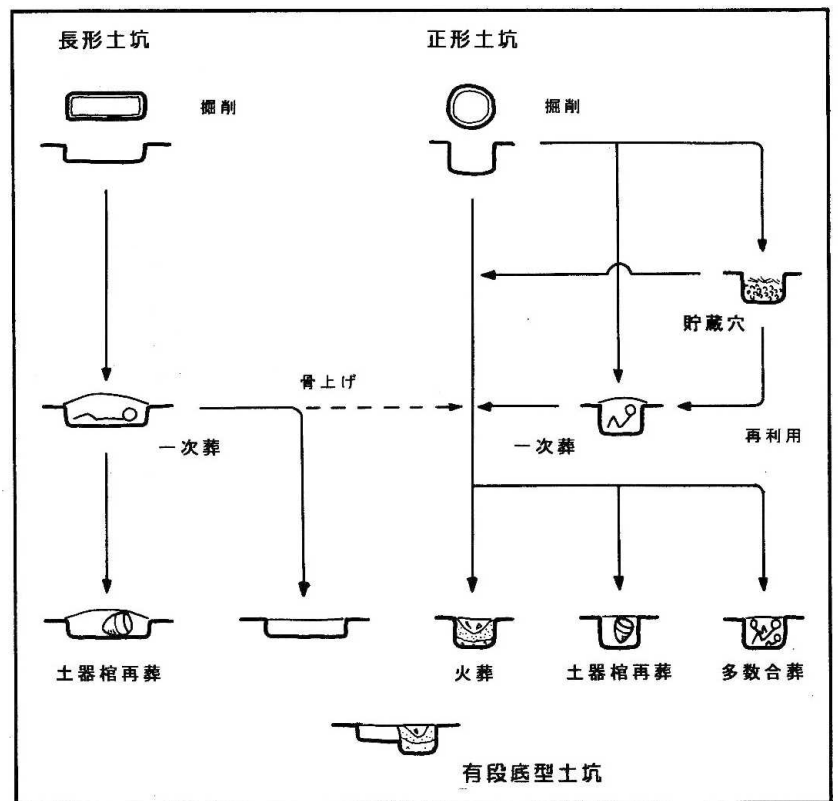


図 18 大阪府向出遺跡から復原する縄文時代後晩期葬制モデル（岡田 2000）

（左）図 17 近畿地方における縄文時代後期後葉の焼人骨出土土坑

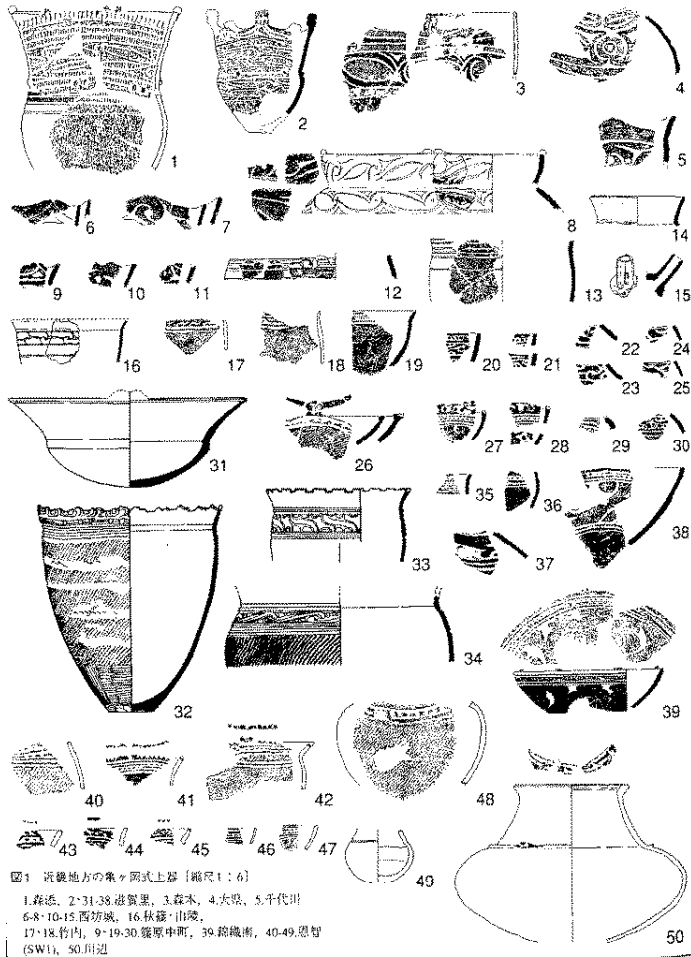


図1 近畿地方の亀ヶ岡式土器 [縮尺1:6]

1.森田, 2・31・38.森田里, 3.森本, 4.大野, 5.平代川
6・8・10・15.西坊城, 16.林森・山崎,
17・18.竹内, 9・19・30.篠原中町, 39.鈴織南, 40・49.恩智
(SW1), 50.川辺

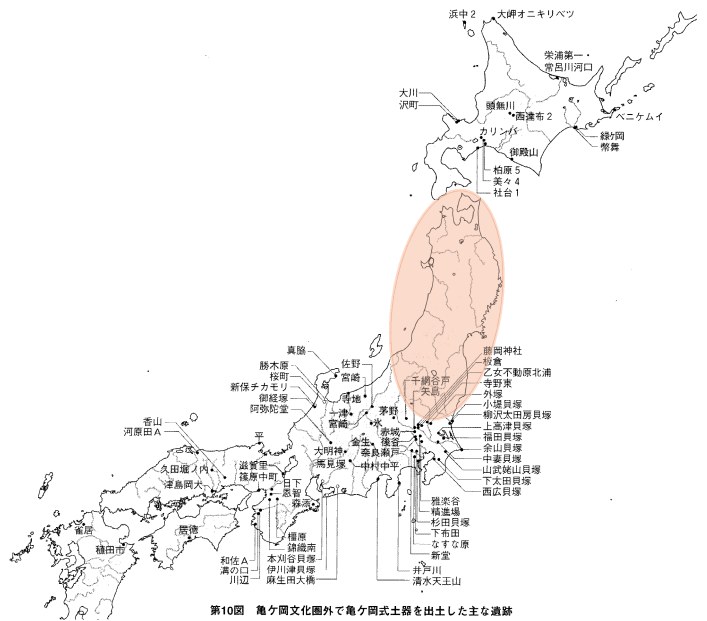


図19 亀ヶ岡式土器の広域分布 (藤沼・関根 2008)
東北地方の楕円形網掛け範囲が分布の中心地

(左) 図20
近畿地方における亀ヶ岡式土器 (岡田 2006)

付表1. 土器中の岩石鉱物分類表

		礦物										岩石													
		石		英	カ	長石	斜	微	角	輝	黒	白	ジル	ス	緑	小	火成岩		花崗閃緑岩	石英閃緑岩	安山岩	砂岩	堆積岩	結晶片岩	接觸變成岩
		一般形	波動消光	融食形	ハイト	長石	長石	長石	閃石	石	雲母	雲母	コン	フェン	簾石	透明鉱物	花崗岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩	閃緑岩
滋賀里式土器	1	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	3	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	4	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	5	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	6	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	7	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	8	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	9	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	10	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	11	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	12	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
北陸系土器	13	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	14	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	15	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	16	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	17	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	18	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	19	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	20	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	21	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	22	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	23	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	24	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
亀ヶ岡式土器	25	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	26	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	27	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	28	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	29	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	30	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	31	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	32	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	33	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	34	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	35	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	36	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	37	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	38	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	39	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	40	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	41	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	42	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	43	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	44	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	45	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	46	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	47	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	48	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	49	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

(○は薄片中に「ある」)
(◎は薄片中に「多量にある」)

付図2 分析資料 (北陸系土器13~24, 亀ヶ岡系土器25~49)

図21 滋賀里遺跡における土器胎土分析 (清水 1973)